

男女共同参画 VOL.3

■ 男性の家事・育児参加

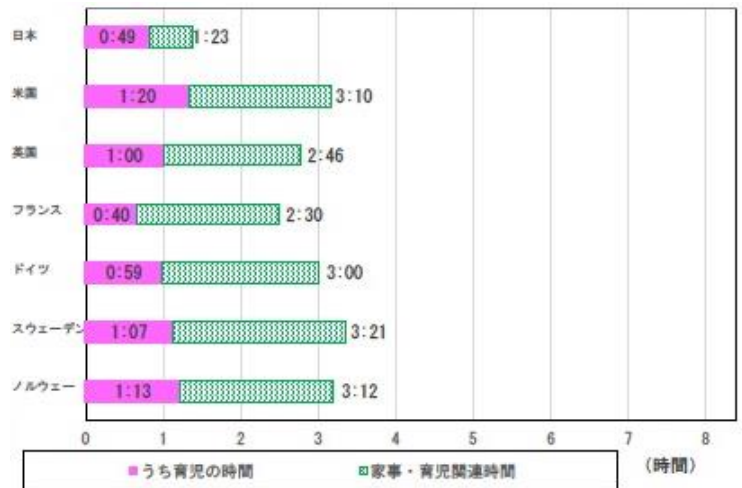
最近、街中でベビーカーを押したり、子どもを公園で遊ばせたりしている男性をよく見かけるようになりました。

このように、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のことを「イクメン」と呼び、料理を趣味にする男性や家事を積極的に行う男性を「カジダン」と呼ぶなど、注目を集めています。

しかし、世界的にみると、日本の男性が家事や育児に費やす時間は最低の水準であることがわかります。



6歳の子を持つ男性の1日あたり家事・育児関連時間の国際比較



資料：総務省「社会生活基本調査（2016）」より

■ ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動などの「仕事以外の生活」との調和がとれている状態をいいます。しかし、その実現のためには、これまでの働き方を見直すことや、一人ひとりの多様な生き方を認めながら柔軟な働き方ができるゆとりある職場の環境づくりが必要となってきます。いわゆる「働き方改革」です

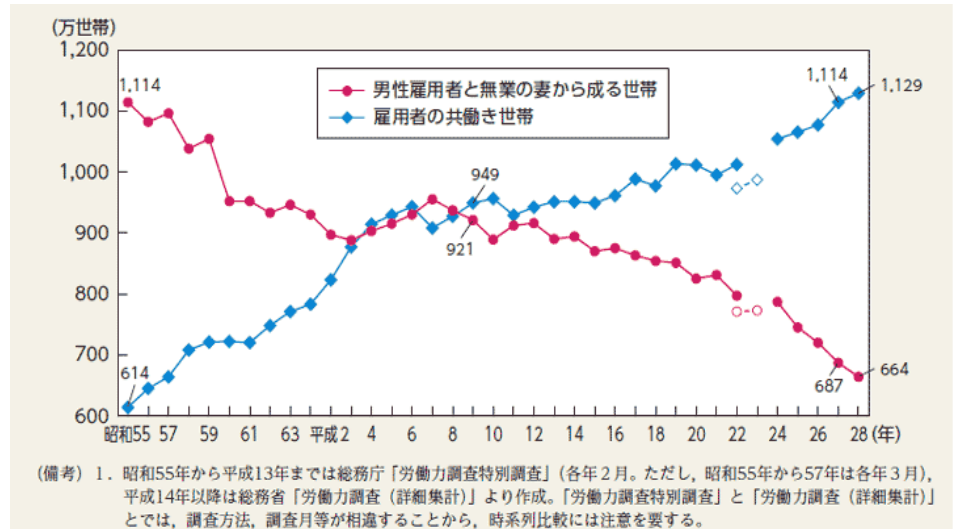
～働き方改革のポイント～

- I 労働時間の是正** 残業時間の上限や有給休暇の取得を義務付けるなど、働き過ぎを防ぎ、個々の事情に合ったワーク・ライフ・バランスを実現。
- II 待遇の改善** 正社員と非正規社員の職務内容や賃金格差を改善し、だれもが納得できる働き方を目指す。
- III 高齢者就労の促進** 定年の延長や就労支援を行うなど高齢者就労を促進し、少子高齢化による労働者の減少を是正。

現在では共働きで働く世帯がほとんどだわ。ワーク・ライフ・バランスの実現が不可欠となっているね。



共働き等世帯数の推移



男女共同参画社会はすべての人にとって生きやすい社会

女性も社会で活躍できるようになったとき、女性も男性も長時間労働をしていては、家事や育児をすることは困難です。男女共同参画社会を実現していくには、仕事と仕事以外の生活のバランスが取れることが大切になります。それぞれの家庭の状況に合わせて、女性も男性も気兼ねなく育児休業を取ったり、短時間労働をしたり、残業をしないなど柔軟な働き方ができるようになることが求められています。

また、一人ひとりの意識の中で「男性はバリバリ仕事をするのが当たり前」「女性は家事育児をするのが当たり前」と決めつけず、家族みんなで家事や育児、介護などを分担できたら、女性も男性も仕事と家庭を両立でき充実した毎日が過ごせるのではないのでしょうか。

